

NUcross 第9回研究交流会

それでも 書/描いた 女性たち

2025年2月14日(金) 16時～17時半

奈良女子大学 S棟1階126教室



開催によせて

2020年にドイツで出版されたカタリーナ・ヘルマンによる評伝『それでも書いた女性たち』を、このたび日本でも翻訳出版する運びとなりました。

今回の研究発表会では、ヘルマンの著書に登場する20人の女性作家・思想家たちの中でとくに印象に残った女性たちについて取り上げ、文学・美術の世界で女性たちの置かれていた状況について考えてみます。

書影：「Katharina Hermann: Dichterinnen & Denkerinnen. Frauen, die trotzdem geschrieben haben, Stuttgart (Reclam) 2020」

登壇者紹介

それでも書いた女性たち

兒玉 麻美

奈良女子大学文学部 准教授（ドイツ文学）

これまで、主にドイツ三月前期（1814-1848年）の文学と政治との関わりについて研究してきました。最近では19世紀前半の女性知識人の執筆活動に関心を持っています。



それでも描いた女性たち

野村 優子

愛媛大学法文学部 准教授（芸術学）

ジャポニスムなど日独美術交流史が専門分野です。現在は芸術祭や女性美術教育にも目を向け、ドイツの美術環境から日本は何を学べるのか考えています。



お問い合わせ先

奈良国立大学機構 奈良カレッジズ連携推進センター
異分野交流プロジェクト推進専門部会「NUCROSS」

お申し込みはこちら

0742-20-3411

